

目 次

改訂版 まえがき	i
初版 まえがき	iii
凡 例	v

総 論

第1章 概 論	3
第1節 頭皮針の起源と発展	3
第2節 朱氏頭皮針の特徴	8
1 理論の特徴	9
2 位置の特徴	9
3 針操作手技の特徴	10
(1) 針具	10
(2) 操作手技	10
(3) 患者の体位	10
4 治療の特徴	10
(1) 正確な診断が必要	10
(2) 「五到」が必要	11
(3) 多方面に効果がある	11
(4) 再現性がある	12
第3節 朱氏頭皮針のメカニズム	12
1 経絡との関係	12

2	針操作手技と導気との関係	13
3	生体電磁波との関係	14
4	頭蓋骨縫合部との関係	14
5	神経・内分泌系との関係	15
6	頭皮とバイオホログラフィー理論との関係	16
7	心理的要素との関係	17
	第4節 朱氏頭皮針の展望	18
	第2章 治療区の位置・効能と主治	21
	第1節 治療区の位置の決まり	21
	第2節 治療区の位置・効能・主治	28
1	頭面区	28
2	上焦区	28
3	中焦区	28
4	下焦区	29
5	巔頂会陰足踝区	29
6	肩区	30
7	臀区	30
8	頸区	30
9	背区	31
10	腰区	31
11	骶区	31
12	上腹区	32
13	下腹区	32
14	額顳区	32
15	耳顳区	33
16	枕顳区	33
17	枕区	33

18	上肢区	34
19	下肢区	34
	【参考】 頭部腧穴の位置	34
第3章 朱氏頭皮針の医学理論		37
第1節 中医学理論を核とする		37
1	陰陽学説	37
	(1) 頭部の定位と陰陽	38
	(2) 脳と陰陽	38
	(3) 弁証と弁病の陰陽属性	40
2	臟象学説	41
3	経絡学説	42
	(1) 頭部を巡る経絡との関係	44
	1. 督脈	45
	2. 足の太陽膀胱経	46
	3. 足の少陽胆経	48
	4. 足の厥陰肝経	49
	5. 足の陽明胃経	50
	6. 手の少陽三焦経	52
	7. 陽維脈	53
	8. 陽蹻脈	54
	(2) 頭部経絡と治療区との関係	55
	1. 督脈	55
	2. 足の太陽膀胱経	56
	3. 足の少陽胆経	56
	4. 足の陽明胃経	56
	(3) 頭部経穴と、臟腑病候および治療区の主治範囲の関係	56
	(4) 「四海」学説との関係	57

(5) 「標本」学説との関係	58
(6) 「根結」学説との関係	59
(7) 「気街」学説との関係	59
(8) 「十二皮部」学説との関係	60
(9) 頭皮針治療区と頭部腧穴との関係	61
第2節 頭皮層と脳の解剖と生理	65
1 頭皮の解剖と生理	65
(1) 頭蓋部の軟部組織	65
1. 頭頂部の軟部組織	65
2. 側頭部の軟部組織	67
(2) 頭蓋部の血管と神経	68
1. 頭頂部の動脈と神経	68
2. 頭頂部の静脈	69
2 頭蓋骨の解剖と生理	69
(1) 頭蓋骨の構成と縫合	69
(2) 頭蓋骨の形態と特徴	70
1. 外後頭骨隆起	70
2. 頭頂結節	70
3. 冠矢点	70
4. 頂枕点	71
(3) 頭蓋骨縫合部と治療区との関係	71
3 脳の解剖と生理機能	72
(1) 大脳半球の構造と生理機能	72
(2) 間脳の構造と生理機能	73
(3) 脳幹の構造と生理機能	74
(4) 小脳の構造と生理機能	74
4 脳の生理機能と臓腑の関係	75
(1) 朱氏頭皮針の脳に対する認識	75
(2) 脳の生理機能と臓腑の関係	76

第4章 朱氏頭皮針の操作手技	77
第1節 操作手技の基礎知識	77
1 針具	78
2 体位	78
3 消毒	78
4 刺入	79
5 刺入の角度と深さ	79
6 得気	81
7 刺針の位置，方向と本数	81
8 帯気と運針	82
9 留針と守気	83
10 抜針	83
11 治療回数および期間	83
臨床実践の結果による証明	84
12 頭皮針の禁忌と事故の処理	84
(1) 禁忌	84
(2) 事故の処理	84
第2節 特殊な操作手技	86
1 特殊針法	86
(1) 古典の補瀉手法を基礎とする特殊針法	86
(2) 抽気法と進気法の具体的な操作	95
1. 抽気瀉法	95
2. 進気補法	95
(3) 抽気法と進気法の特徴	96
2 特殊刺法	96
(1) 『内経』の刺法を基礎とした頭皮針刺法	97
1. 繆刺法	97
2. 遠道刺と遠道選穴法	97

3. 傍針刺	97
4. 斉刺	98
5. 半刺	98
6. 透穴法	99
(2) 頭皮針の特殊刺法応用手技	99
1. 「対刺法」	99
2. 「交叉刺」	100
3. リレー式刺針	101
4. 「排刺法」	101
第3節 得気	102
1 得気の指標	102
2 得気を決定する主な要因	103
第4節 適応範囲	106
1 未病を治療して病を予防する	106
2 早期治療で後遺症を減らす	106
3 急性病や重病の治療ができ、 特に麻痺の治療に効果がある	108
4 脳の活動を高め、老化を防ぎ寿命を延ばす	109
第5章 精・気・神・意	111
第1節 精は蓄と蔵がよい	111
第2節 気は和順と通暢がよい	113
第3節 神は収斂・内守がよい	115
第4節 意は静と清がよい	118
第5節 精・気・神・意と朱氏頭皮針との関係	120

第6章 導引	123
第1節 導引の意味と内容	123
第2節 朱氏頭皮針における導引の内容	124
1 主動導引	124
(1) 各種の功法	124
(2) 運動療法	124
2 受動導引	124
第3節 導引の分類	125
1 導引の分類	125
2 導引方法の選用原則	126
第4節 主動導引	127
1 神意導引（脳導引）	127
2 形体導引	128
(1) 臥位導引法	128
(2) 坐位導引法	132
3 臟腑導引	135
(1) 胸部	135
(2) 腹部	135
(3) 下腹部	136
第5節 受動導引	136
1 受動導引の内容	136
2 常用の受動導引	137
(1) 常用特殊経穴	137
(2) 常用微針療法	139
1. 鼻部刺激区	140
2. 耳廓刺激区	141
3. 舌体刺激区	141
4. 顔面刺激区	142

5. 眼部刺激区	142
6. 手部刺激区	143
7. 足底部刺激区	143
8. 臍部刺激区	144
9. 十二皮部刺法	144
(3) 頭皮針と微刺療法導引の組合せ原則	144
第6節 運動推拿	145
1 推拿の基本手法	145
(1) 揉法	145
(2) 摩法	146
(3) 擦法(平推法)	146
(4) 搓法	146
(5) 按法	146
(6) 点法	146
(7) 叩撃法	147
(8) 推法	147
(9) 拿法	147
(10) 板法	147
1. 頸部板法	147
2. 胸背部板法	148
3. 腰部斜板法	148
2 肢体機能の導引	148
(1) 指撥推拿	148
1. 指撥推拿の意義	148
2. 指撥推拿の操作	149
3. 指撥推拿の注意	150
第7節 導引の注意事項	150

各 論

第 1 章 救急治療	155
第 1 節 昏 睡	155
第 2 節 ショック	160
第 3 節 痙 攣	164
第 4 節 発 熱	167
第 5 節 疼 痛	170
第 6 節 血 証	179
第 7 節 めまい (眩暈)	184
第 8 節 急性麻痺	188
第 9 節 黄 疸	191
第 10 節 喘 息	193
第 11 節 動 悸	196
第 12 節 急性下痢	198
第 13 節 急性尿閉・尿失禁	200
第 14 節 精神障害	203
第 15 節 急性中毒・感電	205
第 16 節 アレルギー反応	209
第 2 章 各科疾患の治療	211
第 1 節 呼吸器疾患	211
1 感冒	211
2 急性扁桃炎	212
3 流行性耳下腺炎	212
4 気管支炎	212
5 気管支拡張症	213

6	肺炎（主に大葉性肺炎）	213
7	肺化膿症	214
8	百日咳	214
9	肺結核	214
	【随症治療】◇発熱	215
	◇頭痛	215
	◇咳嗽	215
	◇鼻閉鼻流	216
	◇咽喉部の腫脹疼痛	216
	◇盗汗，五心煩熱	216
第2節	消化器疾患	216
1	食道疾患（食道炎，食道狭窄， 食道憩室，噴門痙攣，食道がんなど）	217
2	急性胃炎，慢性胃炎，胃・十二指腸潰瘍	217
3	胃下垂症	218
4	ウイルス性肝炎	219
5	急性・慢性胆嚢炎（胆石症）	219
6	急性膵臓炎	220
7	腸閉塞	220
8	細菌性赤痢	221
	【随症治療】◇嚥下困難	221
	◇上腹痛	221
	◇脇痛	222
	◇食思不振	222
	◇嘔吐，吞酸	222
	◇横隔膜痙攣	222
	◇便秘	222
	◇脱肛	223
第3節	循環器疾患	224
1	狭心症，急性心筋梗塞	224
2	肺性心	225
3	リウマチ性心疾患	225
4	脳血管障害（脳出血，脳梗塞）	225
	1. 脳出血の発作時	226
	2. 脳軟化症と脳血管不全症の発作時	226
	3. 脳卒中の後遺症	226

5	心臓神経症	227
6	閉塞性血栓血管炎	227
7	レイノー病	228
	【随症治療】◇心悸亢進	228
	◇胸苦しさ, 胸痛	229
	◇頭痛	229
	◇肢体の疼痛	229
第4節	泌尿生殖器疾患	230
1	腎炎	231
2	尿路感染症	231
3	尿路結石	232
4	子宮外妊娠	232
5	骨盤腔内炎症	233
6	月経痛	233
7	子宮下垂・子宮脱	234
8	副睾丸炎	234
	【随症治療】◇腰のだるさ, 腰痛	234
	◇浮腫	235
	◇頻尿, 尿意逼迫, 排尿痛	235
	◇排尿後の後漏	235
	◇インポテンツ	236
	◇遺精	236
第5節	神経科疾患	237
1	坐骨神経痛	238
2	上腕神経叢神経炎	238
3	メニエール症候群	239
4	癲癇	239
5	神経衰弱	240
6	ヒステリー	240
7	精神分裂症	241
8	小児麻痺	241
9	血管性頭痛 (片頭痛)	242
	【随症治療】◇嘔吐	242
	◇肢体の知覚麻痺, 知覚異常	242

	◇肢体の強直……………243	◇筋肉の萎縮……………243
	◇振戦……………243	◇不眠……………244
	◇言語障害……………244	
第6節	内分泌疾患……………245	
1	単純性甲状腺腫……………245	
2	甲状腺機能亢進症……………245	
3	月経前緊張症……………246	
4	更年期障害……………246	
5	糖尿病……………247	
【随症治療】	◇甲状腺腫……………248	◇眼球突出……………248
	◇顔面部のほてり……………248	◇煩燥不安感……………249
	◇悲観的情緒障害……………249	◇多飲……………249
	◇多食……………249	◇多尿……………249
	◇瘙痒感……………250	
第7節	運動器疾患……………251	
1	関節炎……………251	
2	軟部組織損傷……………252	
3	肩関節周囲炎……………252	
4	寝ちがえ……………253	
【随症治療】	◇頸項部のこわばりと痛み……………253	◇肩甲部痛……………254
第8節	感覚器疾患……………254	
1	近視……………255	
2	緑内障……………255	
3	結膜炎……………256	
4	電気性眼炎……………256	
5	視神経炎, 視神経萎縮……………256	
6	化膿性中耳炎……………257	
7	鼻炎, 副鼻腔炎……………257	
【随症治療】	◇物がよく見えない……………258	

◇目の発赤・腫脹・疼痛	258
◇突発性盲	259
◇目の痒み	259
◇白内障	259
◇鼻汁，鼻閉，嗅覚障害	260
◇耳鳴り，難聴	260

第3章 典型症例の分析 263

1 脳血管障害	263
2 脳梗塞後遺症	264
3 網膜中心動脈塞栓を伴う脳梗塞	266
4 脳溢血（尿路感染症を併発）	268
5 脳挫傷による右下肢不全麻痺	270
6 対麻痺	271
7 脳振盪，右側動眼神経損傷	272
8 リウマチ性心疾患（狭心症を併発）	273
9 頸椎症	274
10 精神分裂症	276
11 眩暈の急性発作	277
12 ヒステリーの急性発作	278
13 急性胆石疝痛	279
14 急性扁桃炎	280
15 気管支喘息の急性発作	281
16 慢性気管支炎	282
17 脇痛	283
18 急性下痢症	284
19 下痢症	285
20 小児下痢症	286
21 急性腰部捻挫	287
22 肩関節周囲炎	288

23	上腕骨外側上顆炎	289
24	右上腕骨外科頸骨折および転位	290
25	膝関節内側側副靱帯損傷	291
26	下肢軟部組織の圧迫損傷	292
27	腱鞘炎（指屈筋腱）	293
28	蕁麻疹	294
29	不正子宮出血	295
30	乳腺炎	296
31	急性潜伏辜丸	298
索引		301
あとがき		309
著者略歴		311